



貴重な歴史・文化の資産を保存するために

当協会など関連6団体で、歴史的音盤のアーカイブに着手



かつて音声の記録メディアとして重要な役割を担っていたSP盤レコードには、時代の世相を伝える音楽や、歴史の生きた証言ともいえる、さまざまな貴重な演説などが記録され、残されてきました。それら貴重な音源を、電子化して保存する取り組みがスタートしました。

日本放送協会、(社)日本音楽著作権協会、(社)日本芸能実演家団体協議会、(財)日本伝統文化振興財団、特定非営利活動法人映像産業振興機構および当協会の6団体は、「歴史的音盤アーカイブ推進協議会(HIRAC)」を設立しました。HIRACは、歴史的・文化的な資産である初期のレコード(SP盤)および原盤の劣化や散逸などによる音源喪失を防ぎ、広く国民に公開、伝承することを目的とします。対象は主に音楽・演説等で、1900年初頭から1950年頃までに国内で製造されたSP盤および金属原盤に収録された約7万曲(音源)が見込まれています。

今回の特集では、HIRAC設立の背景や活動内容、今後のスケジュールとともに、対象となる貴重な音源の一部をリストアップし、紹介します。



(協力: シェルマン)

● 「歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC)」設立主旨

4月27日、日本放送協会 (NHK)、社団法人日本音楽著作権協会 (JASRAC)、社団法人日本芸能実演家団体協議会 (芸団協)、財団法人日本伝統文化振興財団、特定非営利活動法人映像産業振興機構 (VIPO)、社団法人日本レコード協会 (RIAJ) の6団体は、歴史的・文化的資産である初期のレコード (SP盤) および金属原盤の劣化、散逸等による音源の喪失を防ぐため、「歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC※)」を設立しました。

かつて時代の世相を伝える録音メディアとして重要な役割を担っていたSP盤が、時代の経過とともに、昨今、散逸、消失したり、あるいは劣化し始めています。本協議会は、歴史的・文化的資産であるこれらの音源を保存し、広く国民に公開、伝承することで、日本の文化と音楽産業界の発展に寄与することを目的としています。対

象としては、主に音楽、演説等の1900年初頭から1950年ごろまでに国内で製造されたSP盤および金属原盤に収録の約7万曲 (音源) を見込んでいます。

また、本事業の企画、推進にあたっては、当協議会の中に主にアーカイブに関する収録技術、音声フォーマット等を検討する技術検討部会と主にアーカイブの利活用に関する運用ルールの策定等を検討する運用検討部会の2部会を設置します。

今後の予定は、今年度は音源の収録方法や公開方法の事前調査、検討を行い、平成20年度からメタデータの整備、音源のアーカイブを開始、平成22年度から、アーカイブの公開、利活用の準備、検討に入り、平成23年度からの公開を目指しています。

※HiRAC: Historical Records Archive Promotion Conference

● 「歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC)」設立記者会見より

2007年4月27日は、SP盤の新しい歴史のスタートを宣言した日として、記録に残ることとなりました。この日、霞が関ビル33Fにある東海大学校友会館「三保の間」には、HiRAC設立を推進した6団体の関係者が集い、出席したメディア記者の方々に、設立主旨と、その歴史的な意義について語りました。

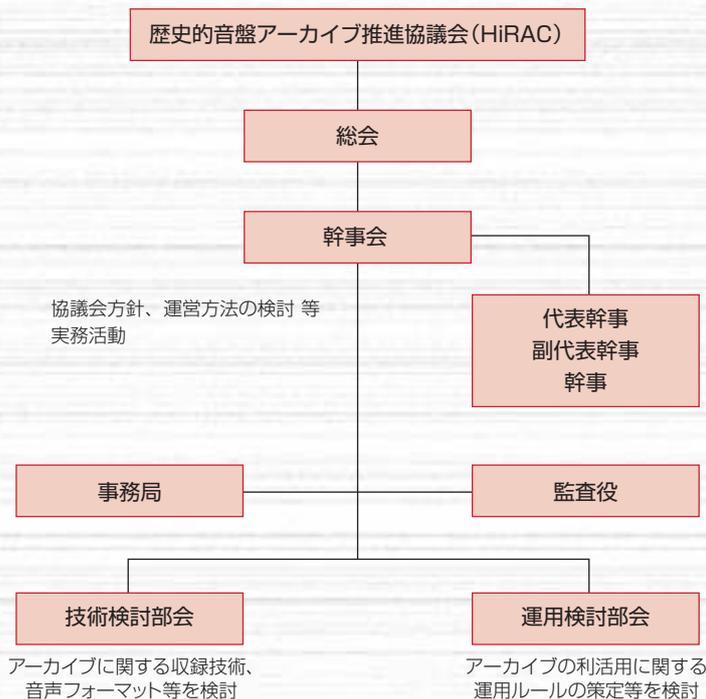
冒頭では、貴重な歴史的音盤の実際の音声や関連する画像・映像を編集したビデオを上映し、1943年当時の東条英機首相による「大東亜共同宣言」、1936年ベルリンオリンピック女子200m平泳ぎで優勝した前畑秀子選手の有名な「前畑ガンバレ」の実況録音

などを紹介しました。

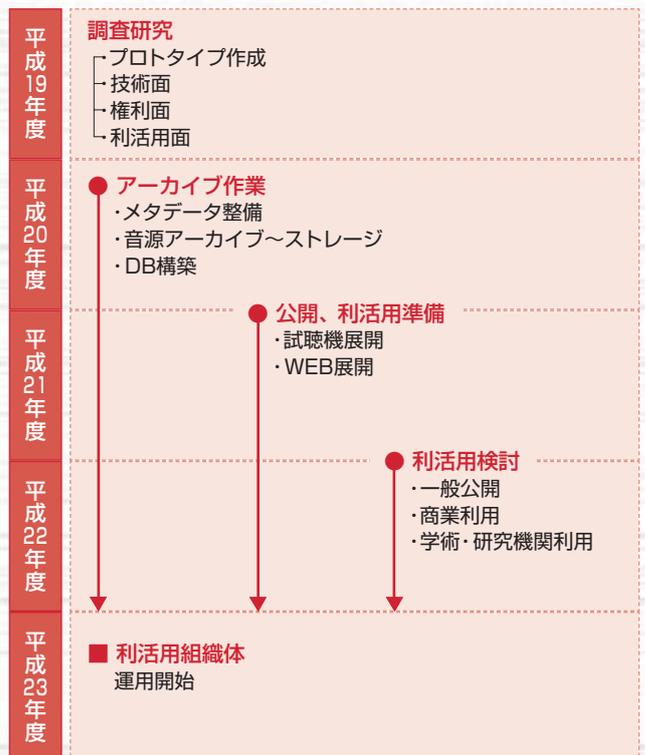
引き続き、6団体関係者から、SP盤は音楽のみならず、さまざまな音声を記録するメディアとして広く活用されてきた歴史のあること、そのため非常に貴重な歴史の証言を含んでいること、しかし現在、こうした歴史的資産の散逸や劣化が起き、喪失の危機に瀕していること、アーカイブ化はまさに急務であることなどを述べました。

当日の発表は、各メディアの注目度も高く、新聞、雑誌、インターネットほか多種多様なメディアで大きく取り上げられました。

● 歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC) 組織体制



● 今後のスケジュール (参考)



● 「歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC)」設立記者会見における団体代表のコメント(まとめ)

(敬称略)

HiRAC 代表幹事

(コロムビアミュージックエンタテインメント(株)代表執行役社長兼CEO)

廣瀬禎彦

「自社の工場でSP盤の整理を行ったところ、著名な詩人の朗読の録音盤が出てきました。息の長い、大変な作業ですが、宝探しのような楽しみもあります。多くの人に活用できる仕組みを整えて、使っていただけるようにしていきたいと考えています」

(社)日本音楽著作権協会 理事長

吉田 茂

「その時々々の流行歌は、音楽の楽しさを伝えてきたと同時に、その当時の世相を表現するものです。貴重な音楽が散逸する危機が迫っていますが、歴史の闇に消えないように関係者が連携しなければなりません」

日本放送協会 専務理事 放送総局長

原田豊彦

「NHKでは、かつて放送内容をレコードに刻んで残してきており、歴史的に貴重な記録があります。協議会の活動によりクリアな状態で永久に保存されることは放送文化の発展にも意義深いことであり、積極的に協力していきたいと考えています」

(財)日本伝統文化振興財団 理事長

藤本 草

「大正から昭和にかけて、日本の音楽文化を築いた名人がたくさんいます。この取り組みを通じて、その人たちの貴重な音源資産を活用し、海外にも伝えられる道が広がったと期待しています」

(社)日本芸能実演家団体協議会 会長

野村 萬

「世阿弥が“命には終わりあり、能には果てあるべからず”と言ったように、伝統芸能の基本である肉体から肉体への伝承にも限界はあります。書物や音声の記録はその限界を超え、伝承の鏡として機能してほしいと思います」

特定非営利活動法人映像産業振興機構 事務局長

石川知春

「音楽以外にも放送で利用されたコンテンツなど、文化的に貴重なものはたくさんあります。この活動は、コンテンツを結び、残していく大本の活動になっていくでしょう」

(社)日本レコード協会 会長

佐藤 修

「SP盤の歴史は、音による近現代史です。SP盤は記録メディアとしていろいろな活用のされ方をし、本当に貴重な音源が残されてきました。しかし今、その歴史の資産を残せるかどうかのぎりぎりのところに立っています。気がついたら失われていた、ということにならないように、この活動を国家プロジェクト的なものとして育てていく考えです」



記者会見の様子



ベルリンオリンピック実況放送(前畑ガンバレ)のSP盤

●楽曲のリスト(抜粋)

| タイトル | レーベル名 | 作詩者 | 作曲者 | 実演家 | 発売年 |
|------------------------------|--------|--------------|------------------|-----------------------------|------|
| 宣戦の大詔奉読 | コロムビア | | | 中村 茂 | |
| ガダルカナル沖海戦 一大本営発表一 | ニッタク | | | | |
| 山本元師の死を悼み日本国民に告ぐ (精神教育資料) | ニッタク | | | 蘇峰、徳富猪一郎 | |
| 大東亜共同宣言 | ニッタク | | | 内閣総理大臣 東条英機 | |
| 青き花 | ビクター | 三木露風 | 増沢健美 | 藤原義江、マキシム・シャピロ | 1930 |
| (少年倶楽部掲載)ころび地蔵 | キング | (原作) 北村寿夫 | (脚色・作曲) 長谷山峻彦 | 長谷山雛菊音楽会員 | 1931 |
| 紀元二千六百年記念 日本万国博覧会行進曲 | キング | 日本万国博覧会 | 東京音楽学校 | 永田絃次郎、長門美保 | 1931 |
| 輝け五色旗 | ビクター | 土岐善麿 | 橋本国彦 | 藤原義江、日本ビクター管弦楽団 | 1939 |
| 幼児の時間 日本放送協会 | コロムビア | | 山田耕筰 | | |
| (吹奏楽) 紀元二千六百年 | テイチク | | 森義八郎 | 帝国海軍軍楽隊 | 1940 |
| 海ゆかば(合唱付) | ニッタク | | | 海軍軍楽隊、日本放送合唱団 | |
| 鐘の鳴る丘(第1編)「連続放送劇」より | コロムビア | 菊田一夫 | 古関裕而 | 東京放送劇団、白鳩会 | |
| お江戸日本橋 | ビクター | | | ビクター合唱団、ビクターオーケストラ | 1957 |
| (行進曲) オリンピックの歌 | テイチク | | 高田信一 | テイチクオーケストラ | 1952 |
| アリラン | テイチク | 大高ひさを | | 菅原都々子 | |
| ああ忠臣蔵 | 東芝レコード | 藤間哲郎 | 江口夜詩 | 高松和男、東芝男性合唱団 | 1959 |
| 皇太子さまおめでとう 歌唱伴奏用 | 東芝レコード | | | (監修)加藤正二、(隊長)小林美隆 武蔵野音楽大学鼓隊 | 1959 |



「鐘の鳴る丘」公開収録風景

写真提供：NHK



東条英機 演説